

## 小学校 音楽科 部会

部会長名 福智町立上野小学校 校長 坂本 紳二

実践者名 添田町立添田小学校 教諭 井戸 希美

### 1 研究主題

音や音楽を感じ取り、自己の思いや考えを音楽表現できる児童を育てる音楽科学習指導  
～音楽的な見方・考え方を働かせる「試す活動」を通して～

### 2 主題設定の理由

#### (1) 音楽科教育の動向から

中央教育審議会答申においては、小学校、中学校及び高等学校を通じた音楽科の成果として、「音楽のよさや楽しさを感じるとともに、思いや意図を持って表現したり味わって聴いたりする力を育成すること、音楽と生活との関わりに関心を持って、生涯にわたり音楽文化に親しむ態度を育むこと」と示されている一方で、課題として「感性を働かせ、他者と協働しながら音楽表現を生み出したり、音楽を聴いてそのよさや価値等を考えたりしていくこと、我が国や郷土の伝統音楽に親しみ、よさを一層味わえるようにしていくこと、生活や社会における音や音楽の働き、音楽文化についての関心や理解を深めていくこと」と示されている。

これらの成果と課題を踏まえた小学校音楽科の目標においては、「表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す。」ことが示されている。

音楽的な見方・考え方は、音楽科の特質に応じた物事を捉える視点や考え方であり音楽科を学ぶ本質的な意義の中核をなすものである。

児童が自ら、音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素と、その働きの視点で捉え、捉えたことと自己のイメージや感情、捉えたことと生活や文化などを関連付けて考えているとき、音楽的な見方・考え方が働いている。音楽的な見方・考え方を働かせて学習をすることによって、児童の発達段階に応じた、「知識及び技能」の習得、「思考力、判断力、表現力等」の育成、「学びに向かう力人間性等」の涵養が実現していく。このことによって、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力は育成されるのである。

本研究においては、音楽的な見方・考え方を働かせる「試す活動」を通して、音や音楽を感じ取り、自己の思いや考えを音楽表現できる児童を育成したいと考えており、音楽科教育の動向を踏まえたうえで、そのような児童育成のための音楽科学習指導の研究を進めることは大変意義深いのではないかと考える。

#### (2) 田川郡の音楽科教育の反省から

田川郡では、これまで、教科等研究会音楽部会において、「自分の思いや意図をもって表現する楽しさを味わわせる指導の充実」をテーマに研究を進めてきた。

田川郡の音楽科教育の課題として、楽しく歌唱表現したり、器楽表現をしたりする姿は見られるものの、題材や一単位時間で「何を学んだのか」、「何ができるようになったのか」といった、学習内容の定着が明確になっていない授業が散見され

る。「音楽的な見方・考え方」を働かせて学習をすることで、「知識及び技能」の習得、「思考力、判断力、表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養の実現につなげていく必要がある。

### 3 主題・副題の意味

#### (1) 「音や音楽を感じ取る」とは

「音や音楽を感じ取る」とは、児童が音や音楽に向き合い、聴いたり、表現したりする中で、心が動いたり、印象をもったり、特徴などに気づいたりすることである。音や音楽は、児童が意味や価値を見いだしながら働きかける対象であり、音に耳を傾け、心を動かし、その思いや考えを表出することが大切である。例えば、音や音楽に対して「なんか楽しい」「悲しそう」「キラキラしてる」など知覚・感受したことをリズムや旋律の変化などの音楽を形づくる要素や音楽の構造と結び付けて捉えることである。

#### (2) 「自己の思いや考えを音楽表現できる児童」とは

「自己の思いや考えを音楽表現できる児童」とは、自分の中にある感情やイメージ、考えたことを、音楽を形づくっている要素（音の高さ・強さ・長さ、リズム、旋律、音色、構成など）と関連付けて意図をもって創造的に表現できる児童である。そのためには、音楽を形づくっている要素などに着目して自分の気持ちや考えを音や音楽で伝えたいという表現意図をもち、その意図を表現するための技能を発揮して表現することが重要である。

以下は、目指す児童の姿である。

目指す児童像	具体的な姿	姿の例
①音や音楽の特徴を感じ取り、思いをふくらませている児童 	曲想やリズムや旋律、強弱、速さなどの特徴を感じ取り、そこから思いや考えをもっている。	「この音楽を聴いたら、森の中にいるみたいでワクワクした」 「だんだん速くなるから、走っている気分になる！」
② 自己の思いや考えを音楽で表したいという意図をもって音楽表現している児童 	音を選んだりリズムをつくったりする中で、自己の思いや意図を音や音楽で表現しようとしている。	「トンビが空を高く飛んでいる様子を音の強さで表現したい」 「怒ってる感じを出したくてドラムの音を強くした」
③ 自他の音楽表現の良さや楽しさを味わっている児童 	音の高低や強弱、楽器の音色、リズムの繰り返しなど音楽を形づくっている要素に着目し、自分なりの表現を味わっている。	「強弱の工夫で、空に飛んでいく感じが表現できた」 「静かな音のあとに大きな音を入れて、楽しさを表した」

#### (3) 「音楽的な見方・考え方を働かせる」とは

「音楽的な見方・考え方を働かせる」とは、音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素と、その働きの視点で捉え、自己のイメージや感

情、生活や文化などと関連付けて考えることである。

児童が、音楽的感受性を働かせて、音や音楽を音色、リズム、速度、反復などの音楽を形づくっている要素をそれらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取り、自己のイメージや感情、生活や文化などと関連付けて考えることによって、表現領域では、思いや意図をもって歌ったり楽器を演奏したり音楽をつくったりする学習が、鑑賞領域では、よさなどを見いだし味わって聴く学習が一層充実する。

(4) 「試す活動」とは

「試す活動」とは、音や音楽に主体的に関わりながら、自己の感じたことや表現したい思いを具体的に形にしてみて、その表現が意図どおり伝わっているかを実際に試し、工夫・改善していく一連の活動のことである。

(5) 「音楽的な見方・考え方を働かせる『試す活動』」とは

「音楽的な見方・考え方を働かせる『試す活動』」とは、児童が、自己の思いや考えをもって音楽表現できるできるように、音楽的感受性や音楽の美しさなどを感じ取る心を動かし、音楽を形づくっている要素やそれらの働きで捉えて、自己のイメージや感情と結び付けて捉え、工夫・改善していく一連の活動のことである。

本研究では、1単位時間において、下図に示すように3つの「試す活動」を位置づける。

段階	活動	ねらい	音楽的な見方・考え方が働いた児童の姿の例
であう	「試す活動Ⅰ」	音や音楽の特徴を感じ取り、どのように表現したか思いを膨らませる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「エーデルワイスのなめらかな旋律から、可憐なお花が浮かぶな」</li> <li>・「ピアノの音のゆったりした動きが羽のように軽やかだな。」</li> </ul>
深める	「試す活動Ⅱ」	音楽を「要素」と「その働き」の視点で捉え、実際に音や音楽で表しながら試行錯誤し、よりよい表現を見い出す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「故郷への思いを二部合唱できれいな歌声で歌いたいな。」</li> <li>・「船長さんの楽しい気持ちを表したいからリコーダーをスタカートで演奏しよう。」</li> </ul>
味わう	「試す活動Ⅲ」	友だちの表現と比べて気づきを得たり、自分の表現をふり返ったりすることで、自他の音楽表現の良さを実感する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「〇〇さんのように、ユニゾンで歌う方も気持ちの強さが表せているね。」</li> <li>・「演奏の速度が各グループで違うと、伝わり方が変わるね。」</li> </ul>

このように、「音楽的な見方・考え方」を働かせた音楽学習により、児童の実感を伴った理解や必要性のある実感を伴う技能の習得、質の高い思考力、表現力の育成などにつながると考える。

4 研究の目標

音楽的な見方・考え方を働かせる「試す活動」を通して、音や音楽を感じ取り、

自己の思いや考えを音楽表現できる児童を育てる音楽科指導の在り方を究明する。

5 研究仮説

音楽科学習指導において、音楽的な見方・考え方を働かせる「試す活動」を位置付ければ、音や音楽を感じ取り、自己の思いや考えを音楽表現できる児童を育てることができるであろう。

6 研究の計画(授業の計画)

(1) 題材 「様子を思いうかべて、豊かな表現をつくろう」

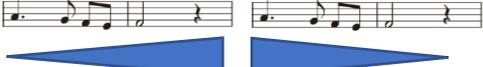
(2) 題材の目標及び指導計画

題 材	「冬げしき」	総時数	4時間	時期	11月
題材の目標	<p>○日本の自然や季節の情景を詩的に表現した歌曲「冬げしき」の情景を想像して歌う活動を通して、拍や音の重なり、リズムなどの音楽の要素に着目して特徴を捉える力を養うことができる。 (知識及び技能)</p> <p>○音楽の特徴と自分の感じた情景のイメージを結び付けながら、どのように表現すればよいかを考え、工夫して歌唱する力を育てることができる。 (思考力、判断力、表現力等)</p> <p>○友達の意見や表現に耳を傾けながら、音楽のよさや表現する楽しさに気付き、音楽をつくる学習に楽しんで取り組もうとしている。 (学びに向かう力、人間性等)</p>				
次 時	具体的な目標	学習活動・内容	指導上の留意点(欄外)		
1 1 ・ 2	四季の歌と「冬げしき」を聴き比べたり、冬の風景から感じたことを話し合ったりする活動を通して、三拍子の拍の流れにのって正しく歌唱することができる。	<p>これまでに学んだ季節の歌と聞き比べて「冬げしき」を聴き、感じ取ったことについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歌詞を読み、内容を把握する。</li> <li>・三拍子の流れにのって階名唱する。</li> <li>・正しい音程で歌えるようになったら、歌詞に置き換えフレーズや強弱を工夫しながら歌唱練習をする。</li> </ul>	<p>○季節の感じと曲想が関連していることに、気付くことができるように、こいのぼりや春の小川等、季節を感じる日本の歌を聴き比べたり歌い比べたりする。</p> <p>○児童が冬のイメージをふくらませることができるよう、雪や川、夕暮れ、風に吹かれる木々など冬の風景の写真を提示する。</p>		
2 3 本 時	「冬げしき」の情景や様子を強弱でどう表現するかを話し合い、試す活動を通して、表現したい情景と音楽の要素や、曲の特徴とを関連付けながら、自分たちの表現を工夫することができる。	<p>旋律線を根拠にしながらか強弱を考え、全体で共有したことを歌い試しながら工夫して歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・拡大楽譜を使って、個人で強弱を工夫し、歌い試す。</li> <li>・個人の考えを、全体で共有し、歌い試しながら表現を</li> </ul>	<p>○3つの試す活動を設定し、自分たちの表現をすぐに試すことができるように、伴奏の音源をタブレット上に配布する。</p> <p>○個人や全体で表現の工夫を練ることができる</p>		

			工夫する。	ように、単元を通して活用する拡大楽譜を掲示する。
3	4	「冬げしき」の時間の経過や場所の変化を、言葉でどう表現するかを話し合い、試す活動を通して、表現したい様子と音楽の要素や曲の特徴とを関連付けながら、自分たちの表現を工夫することができる。	時間の経過や場所の変化を工夫して歌唱する。 ・1番、2番、3番の歌詞が表す情景の違いから、朝、昼、夕の時間の違いのイメージを想像しながら、言葉を大切にするなど、声の出し方を工夫する。	○イメージにぴったりの情景を表すことができるように「音楽の感じシート」を活用する。

## 7 指導の実際

学習の主な流れ	○指導上の留意点 ◇評価規準
<p>1 前時学習を想起し、本時の課題をつかむ。</p> <p>(1) 赤とんぼと冬景色を歌う。</p> <p> 「赤とんぼ」は強弱が書かれていたね。旋律に合わせてだんだん強くしたり、弱くしたりすると、秋の情景を感じるね。</p> <p> 「冬げしき」も、「赤とんぼ」みたいに、強弱を工夫して歌うとよくなりそうだな。」</p> <p><b>めあて 旋律の動きに注目して強弱を工夫し、冬げしきに合った表現をしよう。</b></p>	<p>○指導上の留意点 ◇評価規準</p> <p><b>試す活動Ⅰ</b></p> <p>『赤とんぼ』と『冬げしき』を歌い、強弱による表現の違いに気付き、情景に合う表現方法にしたいという思いをもつ。</p> <p>○ 強弱が示された「赤とんぼ」の楽譜と「冬げしき」の楽譜を比較提示する。</p>
<p>2 楽譜にどのように歌いたいのか、強弱の工夫を書き込み、歌い試す。</p> <p> 「旋律の動きから強弱を考えてみましょう。」</p> <p>(1) 音の高さを手で表現しながら、旋律を「ラ」で歌う。</p> <p></p> <p> 「旋律が上がっているところは「だんだん強くする」とよさそうだな。」</p> <p>(2) 旋律を根拠に強弱の工夫を考え全体で共有し、歌う。</p> <p></p> <p> 「1・2段目とリズムがちがうな。最初は優しく歌いたいな。mpくらいかな。」</p>	<p>○ 旋律の動きと強弱に関りがあることに気付くことができるように、手で高さを表す身体表現をしながら歌う。</p> <p><b>試す活動Ⅱ</b></p> <p>自分たちの表現を言語化し、音や音楽の要素と関連付け、グループで強弱を考えたり、全体で歌い試したりしながらよりよい表現の工夫を見付ける。</p> <p>○ 表現したいことを言語化することができるように図形楽譜に表す活動を設定する。</p> <p>○ 自分たちの表現をすぐに歌い試すことができるように、伴奏の音源をタブレット上</p>

 <p>「音が一番高くなっている所が、曲の山かな。fで歌ってみよう。」</p>  <p>続くように  終わるように</p> <p>3 全体を通して歌唱する。</p>  <p>「では、全体を通して歌ってみましょう。」</p> <p>4 本時学習のまとめをし、ふり返る。</p>  <p>「今日は、強弱を工夫して歌ったね。では、振り返りをしましょう。」</p>  <p>「最初に歌った時よりも、冬げしきっぽくなった。」</p>	<p>に配布する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 冬の情景と音楽の要素とを関連付けて考えることができるように、旋律線と強弱の変化を視覚的に示す。</li> <li>○ それぞれの強弱を全体で共有することができるように、自分が示したワークシートを撮影し、共有機能を活用する。</li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>試す活動Ⅲ</b></p> <p style="text-align: center;">1段目から4段目までを通して歌い、強弱の変化による情景の変化を味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 強弱の違いによる表現を歌い試すことができるように児童の工夫に適した伴奏をする。</li> </ul>
	<p style="text-align: center;"><b>まとめ 旋律の動きをもとに強弱を工夫すると、豊かな表現ができる。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1番から3番までの歌詞の情景を想像しながら歌いたいという意欲をもつことができるように、情景画を提示する。</li> <li>◇ 音楽の要素や曲の構成と関連付けて、歌唱表現を工夫することができる。</li> </ul> <p style="text-align: right;">【思・判・表】</p>

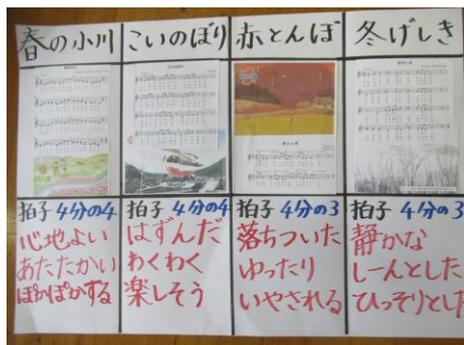
## 8 研究のまとめ

### (試す活動Ⅰ)

『赤とんぼ』と『冬げしき』を歌い、強弱による表現の違いに気付き、情景に合う表現方法にしたいという思いをもつ。

#### ① 手立て

前時の学びをもとに、『赤とんぼ』と『冬げしき』を歌唱させ、強弱による表現の違いに気付けるようにする。その際、強弱記号が示された『赤とんぼ』と強弱記号が示されていない『冬げしき』の楽譜の提示に加え、四季の歌比べ図を提示し、拍子の違いによって曲想が違うことを掴ませる。また、旋律と強弱の関係に着目させながら、情景に合った表現を意識できるよう働きかけを行った。【資料1】【資料2】【資料3】【資料4】



【資料1】



【資料2】

**赤とんぼ**

三木寛典 作詞  
山田耕稼 作曲

♩=60 ゆるく・おだやかに

1 ゆうや け こやけーの あかどんぼ  
2 やーま の はたけーの くわのみそ

おわれ て みたのーはー 一つのーひー か  
こかご に つんだーはー まぼろーしー か

【資料3】

**冬げしき**

文部省唱歌 西崎嘉太郎 編曲

♩=100 ぐさい

1 さ ぎ り き ゆる み など え の  
2 か ら す な き て き に た か く  
3 あ ら し ふ き て く も は お ち

ふ ね に し ろ し あ さ の し も  
ひ と は は た に む き を ふ む  
し ぐ れ ふ り て ひ は く れ ぬ

た だ み ず と り の こ え は し て  
げ も に こ は る び の の ど け し や ば  
い ま だ り さ め ず き し の い え  
か え れ と さ わ か じ の な も み ち と

【資料4】

② 実際

四季の歌比べ図を掲示したことで、『春の小川』、『こいのぼり』の四分の四拍子と『赤とんぼ』、『冬げしき』の四分の三拍子では楽曲が与える印象が異なることに気付くことができた。また、強弱記号が示されている『赤とんぼ』と、強弱記号が示されていない『冬げしき』の楽譜を提示して歌い比べることで、『冬げしき』に合った表現をしたいという思いをもつ姿が見られた。

(試す活動Ⅱ)

自分たちの表現を言語化し、音や音楽の要素と関連付けグループで強弱を考えたり、全体で歌い試したりしながらよりよい表現の工夫を見付ける。

① 手立て

表現したいことを言語化できるよう、図形楽譜に表す活動を設定し、伴奏音源をタブレット上に配布して、すぐ歌い試せるようにした。また、冬の情景と音楽の要素を関連付けて考えられるよう旋律線や強弱の変化を視覚的に示し、ワークシートをタブレット上で共有することで、強弱の工夫を全体で共有できるような場を設定した。【資料5】【資料6】【資料7】



【資料5】



【資料6】



【資料7】

## ② 実際

手を繋いで『ラ』で歌う活動を設定したことで、旋律の動きに気付き、『冬げしき』に適した強弱を図形楽譜に表すことができた。また、タブレット上に音源を配付したことで、何度も歌い試しながら試行錯誤する姿が見られた。交流の場では、児童の表現に合わせてピアノ伴奏を変化させながら何度も歌い試す活動を設定したことで、全員が納得のいく表現を見つけることができた。

### (試す活動Ⅲ)

1段目から4段目までを通して歌い、強弱の変化による情景の変化を味わう。

### ① 手立て

試す活動Ⅱで1段ずつ歌い試した表現を、曲全体を通して歌う活動へとつなげた。

### ② 実際

『冬げしき』の楽曲全体を通して歌う活動をしたことで、曲の山や次につながる感じや終わり方を意識して歌い分けることができ、『冬げしき』に合った表現を工夫する姿が見られた。

## 9 成果と今後の課題

- 単元を通して拡大楽譜とタブレットを用いたことで、自分が表現したいことを音楽の要素に関連付けながら、すぐに歌い試しながら試行錯誤し、各自が『冬げしき』に合う表現を見つけることができた。
- 交流の活動を位置付けたことで、友達の表現の類似点や違いに気付くことができた。また、児童の様々な表現に合わせた伴奏をしたことで、児童が客観的に『冬げしき』に合うクラスとしての表現を見つけることができた。
- 強弱の工夫について理由を音楽の要素と関連付けて十分に説明できない児童もあり、旋律や歌詞を根拠にした表現の言語化にはさらなる支援が必要である。今後は、図形楽譜や視覚的資料をより効果的に活用し、個々の考えを深め、共有する活動の充実を図りたい。

### ◎ 参考文献

- 文部科学省 小学校学習指導要領解説書 音楽編